

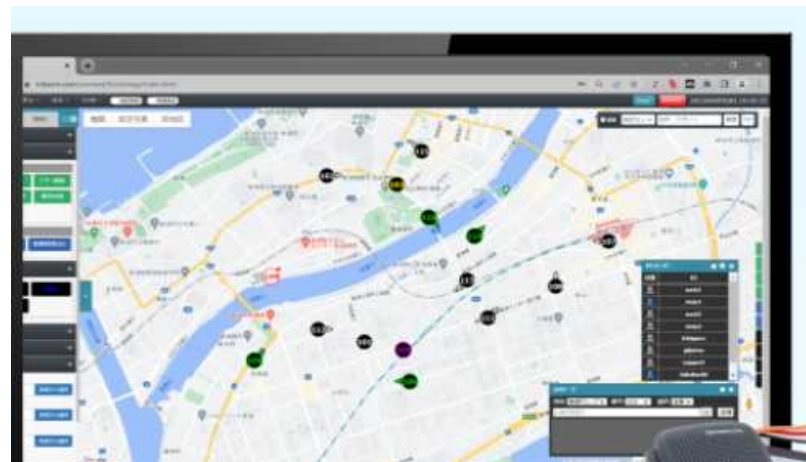
ICカード・バスロケ導入 の効果について



秋田中央交通株式会社

サービス導入の経過

- 令和4年3月 地域連携ICカード「Akica」サービス開始
- 令和5年5月 IC定期サービス開始
- 令和6年7月 バスロケーションシステム導入
バスロケサイト「バス来るTIME」サービス開始



のりば変更 06:15現在		
手形山西町		
定期	行先 (経由)	通過予定時刻 [表也切替]
バス会社	系統番号	現在地
06:51	日原西口行	定期予定
秋田中央交通	373	出発待ち
09:01	日原西口行	定期予定
秋田中央交通	373	出発待ち
14:01	日原西口行	定期予定
秋田中央交通	373	出発待ち
17:26	日原西口行	定期予定

「AkiCa」利用額の推移など

「AkiCa」累計発行枚数 101,045枚 * 令和8年3月末現在
令和7年度発行枚数 7,549枚 (内シニアアキカ3,083枚)
* 「シニアアキカ」を含む

「AkiCa」利用額の推移 * 1ヶ月当たり

令和4年4月 21,211千円

令和5年4月 30,510千円

令和6年4月 45,300千円

令和7年4月 53,500千円

令和8年7月 71,253千円 * 最新

* 令和8年7月では、車内収入の83%がICカード利用

IC定期、シニアアキカ差額【秋田市負担額】を考慮した場合、路線バス収入額の内

ICカード関連収入は90%を超える。 ⇒ ICカード利用が利用者に浸透

秋田市の施策「コインバス事業」により高齢者に利用頂けているが非常に大きい。

ICカード導入の効果

- 導入効果は、**利用者の利便性向上**と**運行管理の効率化**を同時に進められる点が大きい。

主な効果

- 乗降が速くなり、停車時間の短縮につながる ⇒

利用者	支払いが早い 小銭不要
事業者	現金取り扱いが減り、運転手の負担軽減になる
- 利用データ活用 ⇒ 路線見直し、ダイヤ改善に活用
- 定期券や割引施策をデジタル化しやすい ⇒ IC定期導入、コインバス事業のICカード化

利用者	乗り越し清算が簡単 紛失時、定期復元が可能で安心して利用可能 * 紛失再発行による。
事業者	定期確認不要により運転士負担の軽減 「シニアアキカ」切り替えによる見える化効果

バスロケ導入

主な効果

- バスの現在位置がわかる。⇒
 - 利用者 到着見込み時刻がわかり待ち時間の不安が減る。
時刻表ではわからない遅れや近接情報を確認できるため、待ちぼうけ感の軽減につながる。
 - 事業者 運行把握が容易になる。
問い合わせ、苦情の減少などの業務負担の軽減
- 遅延傾向の把握
 - ⇒ 利用者 より正確なダイヤ設定による利便性の向上
 - 事業者 運行の効率化、ダイヤ見直し、待機時間の最適化
 - ⇒ 遅延傾向の把握については現状情報蓄積中。

まとめ

端的に表現すると

利用者に対しては

- ・ ICカードは乗車を簡単にする仕組み
- ・ バスロケは待つ不安を減らす仕組み

事業者側では

- ・ ICカードでは、誰がどこで乗降したか分かる仕組み
 - ・ バスロケでは、バスがいつどこを走ったか分かる仕組み
- これらを連携すると、乗降、混雑、遅延、便毎の需要が見えてくる。

事業者側ではこれらデータを利用し、使いやすさの向上、運行の効率化を図り地域交通を維持できるよう努めていくことが必要である。